

第1学年4組 生活科学習活動案

男子 15名 女子 14名 計 29名

場所 1年4組教室

授業者 伊藤 直之

単元名 じぶんでできるよ (やってみたいな、おうちのしごと)

1 1年4組の子どもたち

本学級の子どもたちは、明るく元気な子どもが多く、学習に対して、とても意欲的に取り組んでいる。自分の思ったことを素直に話したり、聞いたりすることができるようになってきた。

生活科の「はなややさいをそだてよう」の単元では、毎日、自分のアサガオに水をかけ、花が咲くのを楽しみに観察してきた。咲いた花を使って、色水遊びやたたき染めなどの活動を行うことができた。

家族や友だちには、優しい気持ちで接することができる子どもも多く、困っている子どもに対し、言葉かけをする子どもも多い。

本単元に入るにあたり、どれくらいお手伝いをしているかを尋ねてみたところ、ほとんどの子どもが、何らかのお手伝いを経験していた。しかしその多くは、「たまにする」「言われたらする」等が多く、毎日決まったお手伝いをやっているという子どもは少なかった。

自分を支え、温かく育てくれる家族がいることを意識して生活している子どもは少なく、家族と関わり合う時間が減ってきている子どもも多い。また、家族で過ごすことが楽しいと思っている反面、家族がいることが当たり前で、何でもやってもらって当たり前と思っている子どもも見られる。日頃から進んで家の仕事を手伝っている子どもは少ない。

2 教材について

本単元は、学習指導要領「第2節(2)家庭生活に関わる活動」に基づいて設定している。

本単元では、家庭の仕事を調べる活動から、普段意識することが少ない家族や家庭生活に目を向けさせ、家族の一員として家庭での役割を積極的に担おうとする態度を育てていく単元である。

家庭の中で、家族のために働いている人を見つけ出すことで、仕事だけでなく、その人本人の人柄にふれることができる。また、自分のこと以外にも進んで家族のために働いている家族の姿に意識を向けることができる。家の人にいろいろしてもらっていることに気づき、その中には、自分でできることもあることがわかり、自分でできることは自分でやってみようという、自立に向かう芽を育てることができる単元である。

さらに、家庭における仕事や実践を通して、仕事の大変さやしてくれる人の気持ちに気づくことができる。家族に対する感謝の気持ちを育て、自らを規則正しく健康に気を付けて生活できることをめざしていくことができる教材である。

子どもたちが改めて家族や家庭生活を見つめ直し、家族とのかかわりを通して、絆を強め、家族のよさや温かさを実感することもできる。

本単元を学習することで、家の中にある仕事に気づき、あこがれの家族に弟子入りする形で、お家の人に近づき、家事などが継続してできるようになることも考えられる単元である。

3 子ども中心の単元づくりをめざして

(1) 単元の目標

- ・家庭生活を支えている家族のことや自分でできることについて関心を持ち、自分の役割を進んで行うとともに、規則正しく健康に気をつけて生活することができる。

(生活への関心・意欲・態度)

- ・家庭生活やそれを支えている家族のこと、自分でできることなどについて、自分なりに考えそれをやってみることができる。

(活動や体験についての思考・表現)

- ・自分が家族に支えられて生活し、成長してきたことや役割が増えてきたことに気づき、自分でできることを行い、健康に気をつけて生活することができる。

(身近な環境や自分についての気づき)

(2) 単元構成について

まず、導入段階では、自分の手に着目させる。そして自分の手を描く。1年生にできる範囲でしっかり見て描く活動を取り入れる。赤ちゃんの手と比較して、自分の手が大きくなり、できるが増えていることに気づかせ、自分がこの手でできるようになったことをあげていき自分の成長を実感できるようにする。

次に、あこがれの家族の手を観察し、その手で家族のためにしている仕事について調べる。できるだけ、たくさんの仕事について気づくように、学級の中であこがれの家族の自慢をし、家庭の中の仕事について考えさせる。

あこがれの家族の手と、自分の手とを比較させ、その手の大きさやできることの違いから、自分が家庭の中で、家族にいろいろなことをしてもらっていることに気づけるようにする。

さらに、「あこがれの人」に近づきたいという気持ちを引き出し、家庭の中で自分のできることを見つけ、実際にあこがれの人に弟子入りし、仕事をまねてやってみることで家族の一員として挑戦してみる。また、自分でできることは、自分でするということも大切な仕事であることも実感しながら進めていく。その後終末には「あこがれの人に感謝状」を書き、家族へ感謝の気持ちを伝え、自分の気持ちの変容にも気づいていけるようにする。

(3) 目指す子どもの姿にせまるための手立て

① 学習課題に自分事として取り組んでいる姿（自分事）

- ・子どもたちの興味・関心を引き出すような導入・問題の提示

自分の手をよく見て描かせることで、自分の成長に気づき、自信を持ち、できることを増やしたいという意欲を高める。また、家族の手を観察し、その手の大きさやできることから、家族の素晴らしさに気づき、その人に近づきたいという願いを持てるようにする。

- ・計画を立て仕事をしてみたり、感謝状を作ったりし、家族への感謝の気持ちを持てるようにする。

実際に仕事を家族に弟子入りし実践することで、家族の仕事の大切さを味わい、自分の仕事として継続して行っていく。また、仕事をしている途中に中間報告会を採り入れ、活

動を振り返りながら、習慣的な仕事になるようにする。

② 自分の考えを伝え合っている子ども（伝え合う）

- ・学習形態の工夫と伝える場の設定

個別、グループ、クラス全体で、あこがれの家族の素晴らしさを話し合うことで、家の中での仕事を考え、自分にできる仕事を見つける。また、自分や友だちが取り組んだことを交流することで、共に成長したという達成感がもてるようにし、継続の意欲につなげる。

- ・深い学びにつながる学び方を子どもたちと共有していく。

家族に対して弟子入りし、仕事についての意識を高めながら、随時学級で中間発表会を行い、互いの学びの過程を確認し合う。

<評価基準>

| | 生活への関心意欲態度 | 活動についての思考・表現 | 身近な環境や自分についての気づき |
|---------|---|---|---|
| 自分でできるよ | <ul style="list-style-type: none"> ・家族のことや自分の生活を見つめようとしている。 ・家族のために自分でできることをしようとしている。 ・家族の一員として、継続的に自分の役割を果たそうとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を振り返り、家族のことや自分のこと、自分でできることについて考えている。 ・自分でできることや家族が喜ぶことを見つけ、家庭生活が楽しくなるように工夫している。 ・家庭生活をよりよくするために取り組んできたことを振り返ったり、交流したりしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活には、それぞれの果たしている仕事や役割があることに気づいている。 ・家庭の温かさ、家族一人一人のよさに気づいている。 ・自分でできることや自分の役割に気づいている。 ・家族の大切さや自分が家族によって支えられていることに気づいている。 |

(4) 予想される子どもの学び（14時間扱い うち国語3時間 図工1時間 本時5時間目）

| 時 | 学習活動（○）と予想される子どもの反応（・） | 主な留意点（・）と評価（◇） |
|---|--|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○赤ちゃんの手と自分の手を比べ違いを出し合う。 ・柔らかそうで、ぷにゅぷにゅしている。 ・今の自分の手とは違う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんの手と自分の手との違いを比べながら板書していく。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の手をよく見て、手をスケッチしてみよう。（図工 1時間） | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の手をじっくり見て描き、自分の手が赤ちゃんの手と違うことに気づくようにする。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○スケッチしてどう思ったか話し合う。 ・赤ちゃんの手より良く動くな。 | |

| | | |
|-------------|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・色々なことができようになったぞ。 ・運動や仕事。勉強もできるようになった。 | <p>◇自分の成長に気づくことができたか。 (振り返りカード)</p> |
| 4 | <p>○家族の中で誰の手をまねしたいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくはお母さんの手あこがれの手にしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に説明し協力を得て、ワークシート作成を手伝っていただく。 ・自分の手と家族のあこがれの人の手の違いを黒板にまとめ思考を整理する。 ・手の違いを個人、グループ、全体で話し合い、違いに気がつけるようとする。 ・一度付箋を書いた後、友だちと比べもつとないか再び調べてみる。 <p>◇自分と家族の手の違いに気づくことができたか。(つぶやき、振り返りカード)</p> |
| 5 本 時 | <p>○自分の手とあこがれの人の手を比べ感想を述べ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚くて、大きい。太い。 ・色々なことを擦る手だよ。 ・握る力が強いよ。 ・お母さんの手は皿を洗うのが上手だよ。 ・お父さんの手は草むしりが速くできる手だな。 | |
| 6 | <p>○あこがれの人の手のすごさを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕のうちのおばあちゃんの手は漬け物作りが得意な手だよ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手から家族の家庭での仕事のすばらしさに目が向くようにする。 <p>◇自分の仕事を考えることができたか。 (振り返りカード)</p> |
| 7 | <p>○あこがれの人の仕事で自分が挑戦したいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんに近づきたいな。味噌汁を作るのが上手だ。わたしもやってみたい。 ・ぼくは玄関掃除をお母さんのように、うまくてはやくやれるようになりたい。 ・お料理が上手なお母さんの弟子になりたい。 | |
| 8 9 | <p>○あこがれのの人に仕事を教えてもらえるようにお願い状を書こう。(国語2時間)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・家族に弟子入りしたいとお願い状を書く。 ・丁寧な字で、しっかりした文になるよう心がけるようにする。 <p>◇心がこもったお願い状が書けたか。 (文章)</p> |
| 10 | <p>○自分でやってみたい仕事の計画を立て行ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は皿洗いに挑戦するぞ。お母さんのように速くできるようになりたい。 | |
| 11 | <p>○家族のあこがれのの人に近づけたか、中間報告会を行い話し合う。 (まずは、1週間取り組んだ後話し合う。)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会を開き、友だちと認め合ったり、家族から仕事についてのコメントをもらったりすることで、意欲を継続していく。 <p>◇自分の仕事をやることができたか。(発表)</p> |
| 12 | <p>○家でやった仕事について発表し、振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皿洗いは難しかったよ。お母さんは偉いな。 | |

| | | |
|---------------------|--|---|
| <p>13</p> <p>14</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の洋服たたみをまだまだ続けたい。 ○家族に感謝状を書く。(国語 1) ・お母さんは、私のためにいろいろしてくれているんだな。 ・僕もできることをしよう。 ○感謝状を読み合いお互いの実践について聞き合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ◇家族のよさに気づいているか。 (振り返りカード) ・感謝状を書くことで、家族への感謝の気持ちを持たせ、自分のできることはやってみようという気持ちや続けたいという気持ちを育てていく。 ◇家族への感謝の気持ちを持ち、家族が大切な存在だと気づくことができたか。 (発言、振り返りカード) |
|---------------------|--|---|

5. 本時の学習 (5/14 時間)

(1) 目標

自分と家族の手の違いに気づき、感想を言うことができる。

(2) 本時で求める姿

- ・進んで自分と家族の手の違いから、家族への思いを持つ姿。(自分事)
- ・自分と家族の手の違いを生き生きと話したり、友だちの発表を聞いたりする姿。(伝え合う)

(3) 学習活動の展開

| 学習活動と主な発問 (○) 予想される子どもの反応 (・) | 留意や支援 (・) と評価 (◇) |
|---|---|
| <p>1. 手とあこがれの家族の手を比べる。</p> <p>○みなさんのあこがれの人の手は誰の手ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、お母さんの手だ。 ・私はお母さんの手だ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>じぶんのとあこがれのひとのとてをくらべよう</p> </div> <p>○ワークシートの手を見て気づいたことを書き足す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの手は大きいな。 ・お父さんの手は厚いな。 ・握る力が強いぞ。すごいなあ。 <p>2. グループで話し合う。</p> <p>○グループであこがれの人の手を話し合いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このお母さんの手は、色々なことができるんだよ。 ・お父さんは畑の仕事をする手なんだ ・〇〇さんのお母さんの手はうまく、はやく掃除ができる手なんだね。 <p>○みんなの手は、家族の人の手と同じかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違う。小さくてまだお父さんみたいに強い力で力仕事ができない。こんな手になりたい。 ・お母さんのように、上手に洗濯物がたためない。 ・おばあちゃんは煮物も作る手だけど私は作れないよ。 <p>3. 今日の振り返りをする。</p> <p>○今日の学習でわかったことを振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの手は、大きくて色々な仕事を擦る手だ。 ・草むしりするお父さんの手にはかなわない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>家の人の手は自分よりすごいな</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・前時までに作成したワークシートを参考にし、あこがれの人を明確にする。 ・前時まで作成してきたワークシートをもとに、自分のあこがれの家族の人と自分の手を比べさせ、違いに気づかせる。 ・まず一人で考え、ワークシートに気づいたことを付箋に書いて付け足していく ・グループで、話し合いを行い、思考を広げる。 ・自分の手と家族の手を全体で話し合い、家族の仕事についても触れていくようにする。 ・家族の素晴らしさに気づいた児童のつぶやきや付箋について、全体の場面で広げていくようにする。 ・振り返りカードの中から、家族の手の素晴らしさを書いている児童を見つけ全体で発表し、考えを広げる。 <p>◇自分と家族の手の違いに気づくことができたか。(発言・振り返りシート)</p> |